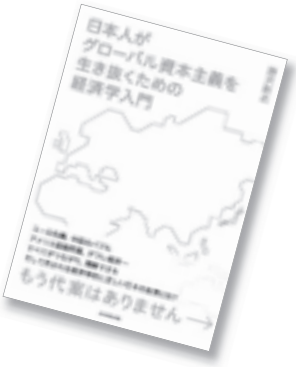
「日本人がグローバル資本主義を生き抜くための経済学入門 もう代案はありません」

著者：藤沢数希
出版：ダイヤモンド社
発行：2011年10月14日



本書は、日本人が世界で生き残るために、何を学び、何をすべきなのかを外資系金融機関で活躍する著者がわかりやすく説明しています。

現在世界中で起こっているさまざまな問題。それは面白いほどにつながっていると説明する本書は、これまでにない経済の入門書です。

第１章　マネーは踊り続ける（世界同時金融危機と福島原発事故の類似点／史上最大、マドフの６兆円詐欺とは…ほか）

第２章　小一時間でわかる経済学の基礎知識（経済学の一番の目的は、貴重な資源を最適配分して社会を豊かにすること／労働市場と解雇規制…ほか）

第３章　マクロ経済政策はなぜ死んだのか？（政府はある程度景気をコントロールできるが将来の選択肢をなくしてしまう／ケインズ政策と乗数理論のダメなところ…ほか）

第４章　グローバリゼーションで貧乏人は得をする（グローバリゼーションは自然現象／先進国が発展途上国を搾取しているわけではない…ほか）

第５章　もう代案はありません（成長戦略が何もないのが一番の成長戦略／税制を抜本改正してがんばる人に報いる…ほか）

読んでみて意見の違いを感じる方もいらっしゃるとは思いますが、ひとつの意見として読む分には非常におもしろいと思います。

大阪市立市岡商業高等学校
教諭　大中真太郎